

CEFR 共通参照レベル：自己評価表（案）

段階	レベル	理解すること		話すこと		書くこと
		聞くこと	読むこと	やりとり	表現	書くこと
熟達した言語使用者	C2	速いスピードで話されても、その話し方の癖に慣れる時間的余裕があれば、どんな種類の話し言葉も難なく理解できる。	抽象的で構造的にも言語的にも複雑な、例えばマニュアルや専門的記事、文学作品の文章など、事実上あらゆる形式で書かれた文書でも容易に読むことができる。	慣用表現、口語体表現をよく知っていて、どんな会話や議論にも難なく加わることができる。自分を流暢に表現し、細かなニュアンスなども詳しく伝えることができる。表現に詰まることがあっても、周りの人がほとんど気づかないほどに修正し、うまく繕うことができる。	状況にあった文体かつ効果的な論理構成で、明快かつ流暢に説明や議論ができる。それにより、聞き手に要点を捉えさせ、記憶に留めさせることができる。	明瞭な、流暢な文章を適切な文体で書くことができる。効果的な論理構成で事情を説明し、その要点を読み手に気づかせ、記憶に留めさせるように、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。仕事や文学作品の概要や評価を書くことができる。
	C1	構成が曖昧で、関係性も暗示されているだけで明示的でない場合であっても、長い話が理解できる。テレビ番組や映画を難なく理解できる。	長い複雑な事実に基づく文章や文学作品を、文体の違いを認識しながら理解できる。自分の関係しない分野での専門的記事や長い技術的な説明書も理解できる。	言葉を探さなくても流暢に自然に自己表現できる。社会上、仕事上の目的に合った言葉遣いが、自由に効果的にできる。自分の考えや意見を正確に表現でき、自分の発言を他の話し手の発言に上手に合わせることができる。	複雑な話題を、派生的問題にも立ち入りつつ詳しく論ずることができ、一定の論点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。	いくつかの視点を示して、適当な長さで明瞭な構成の自己表現ができる。自分が重要だと思ふ点を強調しながら、手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。読者を念頭に置いた適切な文体を選択できる。
自立した言語使用者	B2	長い会話や講義を理解することができる。また、話題がある程度身近な範囲であれば、議論の流れが複雑であっても理解できる。テレビのニュースや時事問題の番組も大体分かる。標準語の映画であれば、大部分理解できる。	筆者の姿勢や視点が表れている現代の社会問題についての記事や報告が読める。現代文学の散文が読める。	流暢に自然に会話をすることができ、普通にやりとりができる。身近な文脈の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明し、弁明できる。	自分の興味関心のある分野に関連する限り、幅広い話題について、明瞭で詳細な説明をすることができる。時事問題について、いろいろな可能性の長所、短所を示して自身の見解を説明できる。	興味関心のある分野のことであれば、幅広い話題について明瞭で詳細な説明文を書くことができる。エッセイやレポートで情報を伝え、一定の視点での賛成や反対の理由を書くことができる。手紙の中で、出来事や体験について自分にとっての意義を中心に書くことができる。
	B1	仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。話し方は比較的ゆっくり、はっきりとしているなら、時事問題や、個人的もしくは仕事上の話題についても、ラジオやテレビ番組の要点を理解することができる。	非常によく使われる日常の言葉や、自分の仕事関連の言葉で書かれたテキストなら理解できる。起こった出来事、感情、希望が表現されている私信が理解できる。	旅行中によく起きる状況に対処することができる。例えば、家族の趣味、仕事、旅行、最近の出来事など、日常生活に直接関係のあることや個人的な関心事について、準備がなくても会話に入ることができる。	簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、野心を語るができる。意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。物語を語ったり、本や映画のあらすじ、それに対する感想、考えを表現できる。	身近な、個人的に関心のある話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。私信で経験や印象を書くことができる。
基礎段階の言語使用者	A2	ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、近所、仕事などの直接自分に関連した領域で最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。短い、はっきりとした簡単なメッセージやアナウンスの要点が聞き取れる。	ごく短い簡単な文なら理解できる。広告や内容紹介のパンフレット、メニュー、予定表のようなものの中から一定の単純な具体的に予測がつく情報を取り出せる。簡単に短い個人的な手紙は理解できる。	単純な日常生活の中で、直接情報のやりとりが必要な場合、身近な話題や活動についてやりとりができる。通常は会話を続けていくだけの理解力はないのだが、短い社会的なやりとりをすることはできる。	家族、周囲の人々、居住条件、学歴、職歴などを簡単な言葉で一連の語句や文を使って説明できる。	直接必要のある領域での事柄であれば、簡単な短いメモやメッセージを書くことができる。短い個人的な手紙を書くことができる。（お礼の手紙など）
	A1	はっきりとゆっくり話してもらえれば、自分、家族、身近なことに関する聞き慣れた語やごく基本的な表現が聞き取れる。	例えば、掲示やポスター、カタログなどのよく知っている名前、単語、単純な文であれば理解できる。	相手がゆっくり話し、繰り返したり質問したりして自分が言いたいことを表現するために助け船を出してくれれば、簡単なやり取りができる。必要なことやごく身近な話題についての簡単に直接的な質問であれば、聞いたり答えたりできる。	居住地や知人について、簡単な語句や文を使って表現できる。	新年の挨拶など短い簡単な葉書等を書くことができる。例えばホテルの宿帳に名前、国籍や住所などの個人のデータを書き込むことができる。

※この他、カリキュラム案やJF日本語教育スタンダードを参考に各レベルの5つの言語活動別のディスクリプター（例示的能力記述文）を各10～30程度作成し示すことを検討中。